

公務員(市役所専門職)の仕事

高校 保護者



1. 仕事に就くことについて

皆さんは将来仕事をするに対してどのような考えをお持ちですか。今は想像しにくいかもしれませんが、働く目的を考えると、自分がしたいことを実現したい、社会に貢献したい、お金を儲けて有名になりたいということや、働く場を考えたとき、大きな企業に就職し大きな仕事をしたい、または組織に拘束されず独立して自分のしたい仕事をしたいということもあると思います。民間企業に就職するのか、表題にある官公庁に就職するのかという選択もあります。仕事をするところにたどり着くまでには様々な決断や選択を経なければなりません。この決断や選択は、難しいことでもありますが、自分自身の人生にとってかけがえのない大切な作業でもあります。早い段階から一つの方向を見出し、形は違って自分も納得できる仕事をするのが重要だと感じます。今やっている学校の勉強は、教科そのものの内容に加え、自分の将来の選択を考える準備の場として捉えることもできます。数学の証明解法の道筋がひらめいたり、和文をうまく英訳できた喜びの中に、将来に通じる何かがあるかもしれません。また、大学入試だけでなく、就職試験でも高校レベルの基本教科の力は試されるので、学校の勉強は是非大切にしたいものです。

2. 私の場合

高校時代、デザインの仕事に興味がありましたので、美術系の大学に進学し、卒業後はデザインの仕事に

就きたいと考えていました。クラスは理系に在籍し、受験勉強の合間にスケッチブックに柔らかい鉛筆をはしらせ、美術の受験専門学校にも通いました。しかし、デッサンの力が思うように伸びず、色々模索する中で、工学部の建築が絵をいっぱい描かせてくれる学科であることがわかり、スペースデザインとは建築そのものではないかと納得したこと、数Ⅲと物理化学の得点が取れていたこともあり、受験先を美術系から建築系にシフトしました。そして、予定どおり大学は、建築学科に入学しました。

建築学科ではデザイン(=意匠)ばかりでなく、4年次には構造、生産、環境と大きくは4つの専攻に分かれ勉強します。私は意匠系都市計画の専攻に入り、都市景観について研究しました。就職では商業施設のデザインや施工を手掛ける、高校時代にイメージしていたスペースデザインの会社に入りました。その会社では仕事を一通り経験すると、小さい仕事をチームで任せられるようになりました。デザインを生み出すまでの苦しみはありましたが、描いた図面が形になることに充実感がありました。このように仕事自体は面白かったのですが、待遇面では不満があり、職場が大阪になく、上司から大阪に戻れないことを告げられて、入社時の説明と違うことに大いに疑問を感じていました。そのような時、大学時代からの友人に今の職場である市役所の採用試験があることを教えてもらい、ここは落第覚悟で受験にチャレンジしてみました。あまり準備はしていなかったのですが、運よく合格の通知をいただきました。それからというもの、相当悩んだのですが職場を変える事を決意しました。

3. 私の市役所での仕事

転職前のスペースデザインの仕事と、市役所の仕事とは大きな隔りがあるように見えますが、大学の都市計画のゼミで都市景観の研究を始めたとき、ケビン・リンチやローレンス・ハルプリンと言う人たちの著作や

作品に触れ、都市デザインや「まちづくり」も面白いなと感じていました。そしてそのような仕事をする部署は官公庁であろうとの思いもありました。採用試験の面接会場でも、受験動機としてまちづくりに係わる仕事をしてみたいと試験官に伝えていました。入庁後の最初の配属先はその応答が影響したのかどうかはわかりませんが「まちづくり部門」になりました。

まちづくり部門の仕事は、学生時代にイメージしていたものとは大きく違い、そこには予算があり、作ろうとするまちには既に人が住まわれており、法律に基づきひとつずつ詰めていく極めて現実的な作業の集大成であることがわかりました。係わらせていただいた事業は、商業近代化事業、土地区画整理事業、市街地再開発事業などです。

建築職で入庁したため、現在は人事異動で公共建築物の設計、積算、工事監理を行う部署に在籍しています。比較的大きな公共建築物は、その場所に建つだけで風景が大きく変わるため、建物のデザインの決定は大変重要になってきます。建物とまちの景観とは密接な関係にあるといえます。まちづくりとは造成や道路などの基盤施設整備に加え、土地利用のあり方をデザインしてはじめて完成するのです。

高校時代にデザインの仕事がしたいと思い、軸となる目標を設定していたことで、転職してからも、仕事の進め方は大きく違うものの、物やかたちを作り出していくという部分は共通であり、そのことによって顧客の満足を得ること、住民の福祉に貢献する人のためになす結果の部分も共通であると考えています。

4. 官公庁の職員にするには

ここで市役所を含め、官公庁の職員採用について私の知る範囲で説明したいと思います。官公庁の職員がすなわち公務員です。官公庁の区分として国、都道府県、市町村があります。国が行う政策実務から市町村が行う市民への直接対応まで、組織によって

扱う範囲に違いがあります。都道府県よりも国が包括的な仕事を行い、都道府県よりも市町村が密接に住民と接します。当たり前ですが、組織規模が大きいのが国で、小さいのが市町村ともいえます。

次に職種です。一般の公務員は事務職と専門職に大きく区分されます。事務職は出身学科を問わず募集されます。専門職は私のような建築職の他、土木、機械、電気、化学、情報、農林、保育、看護保健、薬学、獣医など探せば多くの専門課程を卒業する学生を募集していることがわかります。専門職は専門に関連する部署を中心に配属されます。

警察、消防、教職員等も別枠で採用される専門職の公務員です。これらの職も一般の公務員職も法律に基づきその身分は保障されています。

公務員となるためには採用試験を受験しなければなりません。試験科目は一次試験が教養試験、専門試験です。2次試験以降が面接試験です。教養試験、専門試験は準備をしていたほうが合格に近づきますが、最近は教養試験に替りSPI試験といって基礎学力を試し、人となりを試す試験方式が増えているようです。基礎学力=日々の学習や、クラブ・放課後の活動をどれだけ一生懸命取り組んだのか、受験者の学生生活のあり方そのものが問われているのではないのでしょうか。

Navi委員会からの質問

- Q1. 高校時代は文系、理系、その他のどの課程に属していましたか?
- A1. 普通科理科系でした。
- Q2. その職業に就くことを決意したのはいつですか?
- A2. 就職してからです。

